

水レター「びわ湖・よど川」

2008. 8. 28 【vol.2】

独立行政法人 水資源機構 関西支社 発行

水レター「びわ湖・よど川」は、水資源機構全体の取り組みや関西支社管内における水資源機構の取り組みに関する情報、さらに琵琶湖淀川水系の水源地情報を、関西管内の関係者（利水ユーザー、関係府県、関係市町村及びその他の関係機関）の皆様に、直接配信させていただきます。

◇ 名張川源流の碑の建立

平成11年4月1日比奈知ダムが管理を開始して以来、本年度10年の節目を迎えるにあたり記念行事を企画し、その第一弾として名張川の源流の調査と碑の建立を行いました。

名張川は比奈知ダムの上流の奈良県宇陀郡御杖村で菅野川と神末川に分かれており、源流がどちらなのか明確ではありませんでした。このため、地元で山林を管理する御杖村菅野財産区の西川区長にご相談したところ、快くご協力を頂き、菅野川の上流に名張川の源流を特定することが出来ました。

碑の建立に当たりましては、鈴木御杖村村長より直筆の碑文（名張川源流）を頂き、また、御杖村森林組合の協力により高さ2mの木製の碑を制作して頂きました。

幸運にも梅雨の晴れ間の日となった平成20年6月24日に、御杖村と御杖村菅野財産区及び水資源機構木津川ダム総合管理所が共同で源流の碑の除幕式を執り行いました。

除幕式には、鈴木村長はじめ約20名の皆様にご出席を頂き、まず最初に主催者を代表して森田木津川ダム総合管理所長が「比奈知ダムが管理開始10周年を迎えられたのは流域自治体や住民の皆様方のダム管理に対するご理解とご協力のおかげです。」と挨拶を述べ、出席者を代表して鈴木御

杖村村長より「この碑が名張川の恩恵を受ける多くの人々の象徴となり、比奈知ダムの水源地域である御杖村がいつまでも美しく豊かな水を下流に送るために、森林環境を守るため美しい森づくりを進める。」と祝辞を頂きました。

その後、関係者を代表して鈴木御杖村村長、西川菅野財産区長と原関西支社長が、原支社長の音頭の下、源流の碑の除幕を行ない、無事除幕式が終了しました。

また当日は、新聞社（伊勢新聞、奈良新聞、中日新聞）も取材に訪れ、翌日には各社とも写真入りで報道されました。

木津川ダム総合管理所のホームページ（比奈知ダム管理所のお知らせコーナー）もご覧下さい。

<http://www.water.go.jp/kansai/kizugawa/index.html>

◇ 日吉ダムでは渇水対策本部を設置しています

桂川水系の日吉ダム（京都府南丹市日吉町）において8月8日より日吉ダム渇水対策本部を設置しています。

本年の日吉ダム流域での降雨は、7月が69.9mm（平年比38%）、8月が25日までで48.9mm（同36%）と極端に少ない状況です。このためダムからの用水補給に伴いダムの貯水位が低下し、貯水率が50%を下回った8月18日より、ダム下流の用水補給の基準地点（新町下地点）で確保する流量を5 m³/sから4 m³/sに減ずるとともに、利水者の自主節水による渇水対策を実施しています。しかしながらその後、貯水率はさらに低下し、8月27日9時現在の貯水率は45%となっています。

去る8月26日に開催された日吉ダムの関係機関で構成する日吉ダム渇水調整会議において、「ダムの貯水率が30%を下回った時点から、新町下地点での確保流量を4 m³/sから3 m³/sに減ずるとともに、水道用水20%、農業用水20%の取水制限を実施する」ことで合意がなされました。

また、木津川水系の室生ダム（奈良県宇陀市室生区）においても日吉ダム同様水位が低下傾向にあり、8月27日現在66%の貯水率となっており、今後の推移を見守っているところです。なお、水資源機構が管理する他の木津川水系のダム及び猪名川水系の一庫ダムについては今のところ80%以上の貯水率で推移している状況です。

水資源機構では渇水については引き続き国土交通省をはじめとする関係機

関と密な連絡体制を取りながら対応していくことといたしておりますので、皆様のご協力をお願いします。

各ダムの貯水状況については関西支社ホームページの水源データにおいて情報提供しておりますのでご覧下さい。

<http://www.water.go.jp/kansai/kansai/index.html>

◇ 水の週間を中心とする関西管内のイベント等のご報告です。

① 関西支社

・平成20年度水の週間ダム見学会（室生ダム・比奈知ダム）

8月1日から7日までの一週間は水の週間として全国で様々な行事が催されますが、関西支社では本年も奈良県との共催により「平成20年度水の週間ダム見学会」と銘打って参加者を募集したところ、幅広い年齢層の方々からご応募があり、去る8月5日に57名の方のご参加を頂いて室生ダム、比奈知ダムの施設見学会を実施致しました。

奈良県の重要水源の1つである室生ダムでは、洪水防御や用水補給等、ダムの果たす役割について説明があり、参加者の皆さんは室生ダムから桜井浄水場を経て大和平野の各都市に水道用水が供給されていることを聞いて室生ダムを身近に感じられたご様子でした。

昼食のために訪れた比奈知ダムの下流にある親水公園では強い日差しを四阿の緑が遮り、夏の盛りの時期ではありましたが、時折そよ風も吹いて気持ちの良い時間でした。特に子供たちは水辺での水遊びに夢中になっていました。

比奈知ダムでは概要説明の後、参加者の皆さんに予め用意した3種類の飲み水で”利き水”に挑戦して頂きました。2種類のミネラルウォーター（硬水と超軟水）のほか普段から口にしている桜井浄水場の水（水道水）の3種類で、皆さんそれぞれに思案のご様子でした。

続いてはダム堤体の見学です。管理用エレベータに乗って堤体内部へと降りて行き、常用洪水吐きゲートのシリンダを見たり、ダム最下層まで降りるなどしてダムを体感して頂きました。貯留水の水温の関係から堤体内部はひんやりとしており（15℃～20℃）、涼しくて気持ちいいとの声があがりました。

参加者の皆さんにはダムの果たす役割は勿論のこと、当機構についても認識を深めて頂くきっかけになったのではないかと考えております。私どもでは今後ともこのようなイベントの実施を通じて水資源機構を広くアピールして参ります。

関西支社のホームページ（新着情報）もご覧下さい。

<http://www.water.go.jp/kansai/kansai/index.html>

② 川上ダム建設所

・血首ヶ井戸（ちこべがいど）雨乞い

平成20年7月27日（日）に、川上ダム建設予定地の前深瀬川沿い上流の高尾地区において、藤原千方（ふじわらちかた）伝説の遺跡地である甌穴※（血首ヶ井戸）の井戸浚え（雨乞い）が約80年ぶりに開催されました。このイベントは、高尾住民自治協議会の皆様が地域の活性化の為、昨年度より「千方伝承会部会」を発足し、復活イベントとして企画、開催されたもので川上ダム建設所からも出席させていただきました。また、イベント開催一週間前の7月20日（日）には、川上ダム建設所職員数名が地元の方々と共に血首ヶ井戸に流れ込む川の瀬替えに必要な土嚢作りや、井戸浚えをお手伝いさせていただきました。

血首ヶ井戸の伝説は、平安時代に伊賀地域を支配した將軍、藤原千方が敵の首を甌穴に投げ入れたとされているもので、甌穴内の石を取り出すと千方が怒って雨を降らせて石を元に戻させたと伝わることから、雨乞いの行事として昭和初期まで続けられていたものです。

川上ダム建設所では、今後も地域起こしのイベント等に積極的に参加し、地域の方々との交流、連携を深めていきたいと考えております。

※ 甌穴（おうけつ）とは河底や河岸の岩盤面上に石や水流によって自然にできる円形の穴のこと。穴の直径、深さとも数cmのものから数mのものまでその姿はさまざまである。

川上ダム建設所のホームページはこちらです。

<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami/>

③ 丹生ダム建設所

- ・手作り満載!!『丹生ダムふれあいフェスタ2008』を開催しました

「水の週間」である平成20年8月3日(日)、滋賀県余呉町の『ウッディパル余呉』において、丹生ダムふれあいフェスタ2008を開催しました。ふれあいフェスタには、恒例の『真夏の雪』(溶けないように地中に埋めておいた今年1月の雪)が登場し、約60立方メートルの雪の中に埋められた宝物を子ども達は夢中で探していました。地元からは茶碗風鈴の工作コーナーも出店され、来年開催予定の『茶碗祭り』がPRされました。炎天下にもかかわらず約1,300名もの方々が来場され、大盛況となりました。

水の大切さを広く知ってもらうために開催したフェスタでは、滋賀県からは余呉湖の曝気施設等の紹介、当事務所からは水機構の概要や事業の必要性、節水の重要性のPRを行いました。

フェスタに来場された方々へのアンケート結果(144名の方々が回答、約83%が姉川・高時川流域の方々)によると、水が限りある資源であると認識している方が約91%、普段の生活で水を大切にしているという方が約86%、風水害の報道を見て不安に感じる方が約86%という結果でした。多くの方が水の大切さを認識し、水を大切にしているという状況が見て取れ、風水害への不安を多くの方々が感じているようです。当事務所としても、丹生ダムの必要性に対する説明責任を果たすとともに、更なる節水意識の向上に努めていきたいと考えています。

ご来場頂きました皆様に心から感謝いたしますとともに、水の大切さを再認識して頂く良い機会となればと考えています。節水PRのリーフレットもホームページに記載していますので、この機会に一度ご覧下さい。

丹生ダム建設所のホームページ(新着情報)もご覧下さい。

<http://www.water.go.jp/kansai/niu/>

④ 琵琶湖開発総合管理所(滋賀県大津市)

- ・新浜田んぼ池完成式・自然観察会を開催

平成20年8月8日、草津市の近江大橋沿い湖岸にて、新浜田んぼ

池完成式および自然観察会を開催しました。

瀬田川や南湖浚渫土砂の仮置き場として利用してきた新浜ヤードは、近江大橋沿いという目立つ立地でありながら雑草や雑木が生い茂るなど景観上好ましくない状況にあったことから、草津市や地元自治会の改善要望を受け、有効利用を検討していました。平成17年度に湖岸堤の堤内側に、大型店舗出店計画が具体化したことから、造成盛土材として利用すべく当該企業と協定を締結し、土取り後の跡地整備として、水利使用に関する協議など法手続を済ませ、約1.5haのコイ科魚類等の産卵・育成の場である田んぼ池を創出しました。琵琶湖からポンプにより取水した水は、暗渠管を通して上池に通水し、各々段差20cmの階段状魚道によって結ばれた中池、下池に流れていきます。さらに、下池と琵琶湖は、外来魚の侵入を防ぐ階段式魚道によって繋がっています。

当日は、真夏日の中、草津市や県を始め南湖再生ワーキング関係機関や地元関係者ら約百人が出席し、代表者による挨拶の後、上池へのポンプ通水、テープカット、約40名の地元園児らによるフナの稚魚放流を行いました。その後、下池にて自然観察会を実施し、琵琶湖から遡上して生息し始めた魚類や昆虫等を採取しました。観察結果の説明の際には、魚や昆虫の特徴や身近に生息する生物の意外な習性についての説明に聞き入る参加者の姿が見受けられました。子供たちは、採取した魚やザリガニと触れ合うことで楽しく過ごしている様子でした。この模様は、新聞社や地元放送局の取材を受け、夕方のニュースで大きく取り上げられました。

今後は、自然観察会等の環境学習の実施や湖岸堤側に整備された広場の利用などについて、関係機関や地域住民、NPOなどと密接に連携し、共同による管理運営を目指していきます。

琵琶湖開発総合管理所のホームページ（News）もご覧下さい。

<http://www.water.go.jp/kansai/biwako/>

⑤ 木津川ダム総合管理所

・比奈知ダム施設見学会（三重県名張市上比奈知）

比奈知ダム管理所では管理開始以降（平成11年）、毎年「水の週間」行事として施設見学会を実施しています。

今年も昨年から始めた新たな取組を継続して、水源地域ビジョンに参加されている団体の方々にも出展して頂き、地域との連携・交流を目指した施設見学会を8月3日（日）に開催しました。

当日は、ダム見学や子供たちも楽しめるアトラクション（流木を利用したコースター作りなど）のほか、地域の団体（名張市上下水道部・森林組合・漁業協同組合・御杖村・名張市観光協会・上野農業高等学校など）の方々に出展して頂いたおかげもあり、猛暑の中での開催となりましたが、事前の広報活動（地域の情報紙・名張市広報誌への掲載、名張市内の小学校にチラシを配布）が効果を発揮し、会場は大勢の来場者（約500名）で賑わいました。

木津川ダム総合管理所のホームページ（トピックス）もご覧下さい。

<http://www.water.go.jp/kansai/kizugawa/index.html>

⑥ 一庫ダム管理所（兵庫県川西市一庫）

・美しい猪名川を！！ 第2回流木ペインティング大会を開催

一庫ダム水源地域ビジョン推進協議会では、様々なイベントを通じて、自然環境の保全、周辺地域の活性化に繋げる取り組みを行っています。

8月3日、一庫ダム上流の知明湖キャンプ場を会場として、第2回流木ペインティング大会を開催しました。

今年で2回目となるこのイベントは、知明湖に流入した流木にペインティングして芸術作品にし、廃棄物の有効利用とゴミの減量への知識を高めていただくとともに、美しい猪名川・知明湖の再生を啓発することを目的に行っています。

実行委員長である川西市長（副市長代理）の主催者挨拶の後、洋画家の安食慎太郎（あじきしんたろう）先生から実技指導を受け、この日の参加者70名は流木の選定に入り、各色の水性ペンキで各自が思い思いにまさしく世界に一つしかない作品を真剣な表情で熱心に取り組み、約1時間半程で芸術作品？を完成させました。この後、全員でイベント会場周辺のゴミ拾いを行い、安食先生から流木ペインティング大会の講評と『下流60万人の水ガメである知明湖を再生し美しい猪名川にしよう！！』と述べられ、参加者からは『面白かった。ぜひ来年も来たい。』などの話もあり、作品を前に記念撮影を行って今年のイベントを終了しました。

世界に一つしかない芸術作品は、8月15日までは一庫ダム管理所玄関前に、18日から21日までの間、川西市役所1階ロビーに展示されました。

一庫ダム管理所のホームページ（新着情報掲示板）もご覧下さい。

<http://www.water.go.jp/kansai/hitokura/>

⑦ 日吉ダム管理所（京都府南丹市日吉町）

・あかりがつなく記憶（天若湖アートプロジェクト2008）

天若湖アートプロジェクトは、日吉ダム建設に伴い水没した集落の灯りを湖面に再現し、まぼろしの夜景を見るという経験を共にすることで、上流と下流、流域住民の間で共感的理解を創出することを目的としたイベントです。NPO法人「アートプランまぜまぜ」と「桂川流域ネットワーク」の方々が天若湖アートプロジェクト2008実行委員会の中心となり、日吉ダム管理所も「あかり」の設置などで協力支援し、毎年8月に天若湖（日吉ダム湖）で開催され、今年で4回目の取組となります。

今年は、宮村、世木林、沢田、楽河の4集落を再現し、過去最大の規模となりました。

また、当日は事前に応募いただいた小学3年生以上のお子様とご家族の方々にもご参加いただき、日吉ダム湖畔で創っていただいた「あかり」を湖に浮かべることができました。更に今回は、世木林にも観覧場所を設置し、あかりをご覧いただいたほか京都市内からのツアーバスを運行するなど新たな取り組みも行い、沢山の方に暗闇の中でほのかに光り幻想的な「あかり」を堪能していただきました。

このイベントのメインプログラムである「あかりがつなく記憶」は、ダム湖に沈んだ家屋の真上の湖面上に太陽電池式ガーデンライトの「あかり」を浮かべ、夕暮れ時から鑑賞するものです。今は当然のように存在している日吉ダムですが、水源地域の犠牲なくしては存在しえなかったことを、この「あかり」を通じて下流の方々に知っていただきたいと思っています。

「あかり」の意味を考え、水源地域や移転された方々への感謝の気持ちを醸成していくことは大切であり、そしてそのことが、桂川という一本の川の上・中・下流の住民に、川というものを媒介にした「絆」が生まれるきっかけとなるように、このイベントを発展させていきたいと思っています。

日吉ダム管理所のホームページ（News!!）もご覧下さい。

<http://www.water.go.jp/kansai/hiyoshi/>

編集後記

今号は比奈知ダム管理開始10年を記念した「名張川源流の碑」建立のご紹介と、各事業所において水の週間を中心として開催されたイベント報告を配信させて頂きました。

水レター「びわ湖・よど川」に対して、ご要望、ご意見等がございましたら、下記アドレスまでご連絡下さい。(耳寄りな情報もお待ちしています。)

<mailto:w-kansai@msg.biglobe.ne.jp>